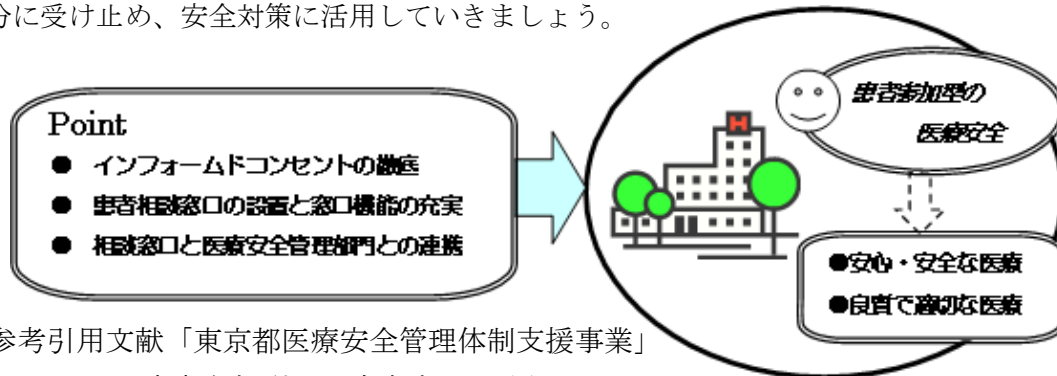


患者参加型の医療安全について考えてみませんか？

本来、医療は患者と医療従事者との信頼関係の下に、患者の求める医療を提供していくものです。患者は医療を受ける主体であり、医療安全を考える上で、患者の立場を最優先に考えるべきであることはいうまでもありません。患者とともに医療に関する情報を共有しながら、患者と医療従事者との相互理解を深め、医療の透明性を高めていくことが重要です。

インシデント・アクシデントの第一発見者が患者であったり、医療機関が気づかなかった構造上の問題が苦情で明らかになるなど、患者からの情報提供（苦情含む）には、医療安全のための重要なヒントが隠されていることがあります。医療の安全性を確保していくためには、医療を受ける患者からも協力が得られるように、患者の医療への積極的な参加を促進していく必要があります。患者の声に耳を傾け、患者からの情報を十分に受け止め、安全対策に活用していきましょう。



参考引用文献「東京都医療安全管理体制支援事業」
患者参加型の医療安全への取組